

# 令和4年度 河城保育園 施設自己評価

保育所は保育士の質の向上を図る為、保育の計画の展開や自己評価の結果を踏まえ、施設の自己評価を行い。子どもの人権・人格を尊重する保育を行い、組織全体として子どもの最善の利益を考慮した適切な保育を今後も提供出来るよう努力していきます。

## 《評価について》

◎・・・よくできている    ○・・・ほぼできている    △・・・努力が必要

## 《評価対象期間》

令和4年4月1日～令和5年3月31日

## 《評価責任者》

施設長                      古川 己和

## 1. 保育理念

	評価	評価の根拠・改善方法
保育理念、保育目標を理解し正しく説明することができる。	○	常に目につく所に掲示をしてあるが、自己チェックリストの評価が悪いので、個々の自覚を促していく。
保育園の園目標や方針が保護者にしらせている。	◎	入園時、保護者全員に口頭又は書面で説明している。園だよりでも発信している。

## 2. 保育計画

	評価	評価の根拠・改善方法
保育計画を作成し、見直しをもった保育を実施している。	◎	子ども達の様子を見たうえで、保育指針に基づき、保育課程、年間保育計画月案、週案、日案を作成している。
年間計画、年間行事の見直しをしている。	○	子ども達が主体で活動できるよう環境・援助・配慮を考えながら立てていく。

## 3. 人権尊重

	評価	評価の根拠・改善方法
子どもの人権が尊重され、大切にされていると感じる。	◎	子どもの最善の利益を考慮し、一人ひとりの思いを大切に、常に寄り添い丁寧な保育に努めている。

## 4. 個人情報

	評価	評価の根拠・改善方法
個人情報の扱いについて入園時に説明されている。	◎	入園時には口答で説明を行う。他は毎年書面で説明し、必ず1人ずつ個人情報の承諾書を提出してもらっている。職員全員が守秘義務は周知し守っている。
業務上知り得た子どもの情報に関する守秘義務について全員周知している。	◎	
保護者からの相談の内容の守秘義務について全職員周知している。	◎	

## 5. 保育内容

	評価	評価の根拠・改善方法
遊びに入れない子どもや、全体の様子に気を配っている。	◎	全体を見ながら一人ひとりの気持ちに寄り添い、声掛けの援助を行っている。
子どもがのびのびと意見や意思が表現できるような保育が行われている。	○	子ども1人一人の気持ちを汲み取りながら、かつ自ら考えて行動できるような働きかけを行う。
遊びを通して、友達や保育士との関わりが十分持てるよう配慮されている。	◎	保育士自身が一緒に身体を動かしながら楽しんで保育している。
遊びや生活を通して人間関係が育つような取り組みがなされている。	○	子ども主体で遊びが展開していく環境を保育士が意図的に整える。
身近な自然や社会と関わるような取り組みがなされている。	○	散歩に出かけ出会った地域の人や来客者に、自分から進んで挨拶ができるようにする。
園の行事や保育の内容が知らされている。	◎	連絡帳やホワイトボード、ホームページを使い、日々の活動が保護者に伝えられている。

## 6. 保育環境

	評価	評価の根拠・改善方法
園内外が清潔で心地よい空間となっている	◎	除菌・掃除を徹底して行う。特に玩具の消毒を行い清潔に保つ。部屋の換気も適宜に行っている。
年齢に応じた保育が提供できるような環境である。	○	視覚からの刺激が入らない様に、保育室は整理整頓をして、安全で過ごしやすいようにしておく。
子どもが落ち着いてすごせるよう、保育室の雰囲気、おもちゃが工夫されている。	○	手の届くところに玩具を用意し、選択できるようにしておく。コーナー遊びも保育者が意図的に整え遊びを充実させる。

## 7.特別な支援を要する子どもへの対応

	評価	評価の根拠・改善方法
特別な配慮が必要な場合の対応がされている。	○	信頼関係を築いたうえで保護者の気持ちに寄り添い情報共有をしていく。、専門機関と連携をとりながら個々にあった保育を行っていく。

## 8.保護者支援

	評価	評価の根拠・改善方法
意見や要望などへの対応ができている。	○	保護者からの要望、意見を聞き改善の努力をしていく。必要に応じ随時面談を行い保護者と情報共有をしていく。
職員が子育て等、話しやすい雰囲気や態度で接している。	○	保護者の気持ちに寄り添いサポートしていく。保護者と子どもに笑顔で挨拶をし、気持ちの良い対応を心がけていく。

## 9.安全対策・健康管理

	評価	評価の根拠・改善方法
保育中の体調への気配りや怪我等に対して配慮されている。	○	事故、怪我のないよう声をかけあう。必ず報告して情報を共有し、再発がないように
感染症の発正状況や注意事項などが知らされている。	◎	保健便りの発行。感染症発生時には一斉メールにて保護者に知らせている。
子どもの成長を把握している。	◎	年2回の健康診断、毎月の身体測定の結果を保護者にしらせ、情報を共有してい
不審者対策を行っている。	○	色々なパターンを想定し職員が瞬時に対応出来るよう、隔月で不審者対応訓練を行っている。

## 10.給食

	評価	評価の根拠・改善方法
給食が楽しく食べられるよう工夫されている。	◎	苦手な食材も無理強いせず、楽しく食べることを第一に考える。見た目の工夫や旬の食材をとりいれたり、戸外で給食を食べる機会もつづけている。
食育を通して子ども達が食に興味を持てるようにしている。	○	プランターで野菜を栽培し、身近に野菜を感じるようにしている。
子どものサインを見逃さないようにしている	○	個々に量を調節し、食べる事に無理強いせず、少しずつ食べれるようにしていく。
アレルギー除去食の対応。	◎	食器の個別化徹底。献立表をダブルチェックし、食べる時も個別対応をして誤飲がないようにしている。
衛生管理の徹底。	◎	白衣、帽子、マスクの着用。調理室内の衛生、掃除の徹底。

## 11・地域支援

	評価	評価の根拠・改善方法
地域との関係が適切に保たれている。	△	今年度も新型コロナウイルス感染予防のため、外部の方々との交流が出来ず残念だったが、少しずつ通常通りにしていきたい。
地域の子育て支援、交流	△	ホームページで園庭開放日を公表はしていたが、コロナ禍で利用する方は少なかった。小学校に遊びに行かせてもらいたい。

## 12.職員育成

	評価	評価の根拠・改善方法
職員の質の向上に努めている。	○	常に自分の保育を振り返り、保育者としての専門性、役割を踏まえて保育の質の向上に努めていく。その為には職場環境の整備、体制を整えていく。
社会人としての振る舞いを指導している。	○	自分の仕事に誇りを持ち、質の高い保育を目指していく。子ども達、保護者から信頼される園であるように努めていく。

### 【園全体の評価・反省】

- ・今年度も新型コロナウイルス感染症感染の感染対策をしっかりと行いながら、行事を見直し、見極めながらやれることは行うことができた。
- ・不適切な保育が問題となり、職員全員が「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を実施した。子ども達に配慮として行っていた事が、不適切な保育につながってしまう事があると気づかされた。保育士一人ひとりが日々の保育を振り返り見直す事が出来た。これからも保育士1人の思いだけで判断するのではなく、園全体声を掛け合い、協力し合い、情報共有し子ども達の気持ちに寄り添い丁寧な保育を引き続き行っていく。
- ・年度後半で園庭の環境設定について話し合い、常に子ども自身で玩具が取り出しやすく、使いやすく配置されたことにより、保育者にベタベタしてなかなか自分の遊びが始められない子たちの姿がなくなり、子ども自身が好きなことをみつけじっくり遊び込む姿が見れるようになってきた。友達や異年齢との交流で遊びの幅が広がり、日々の遊びのつながりはじめてきている。安心できる環境の中で、自己表現し好きな遊び・活動など様々な経験の中で、自信が芽生え自分の思いを伝えようとする姿が増えてきている。
- ・子ども達が自由にやりたい事ができたり、自分の苦手なこと、嫌なことが素直に保育者に伝える事ができる良い関係性ができていることがわかる。子ども達からの案をすくいあげ、現実にもできるようにもしてくれている。
- ・視覚からの刺激が入りやすい子がいる為、室内は常に整理整頓に心がけ、子ども達が動きやすい動線の見直しが必要である。
- ・室内の各年齢ごとの玩具の配置見直し、管理、情報共有を行い年齢にあった玩具の説定を行っていききたい

### 【来年度の課題】

- ・コロナ禍で異年齢の関わりや集団遊びが出来ずにいたが、令和5年5月より5類感染症に移行になったこと異年齢との交流の計画をたてて、意欲的に行っていきたい。
- ・子ども理解を深め、今つけたい力を意識しながら保育者がどこまで一緒に行き、どこからは見守るかを考えるようにしていく。
- ・環境づくりについて子どもの姿や保育者の意図を確認できるような、職員同士の話し合いの機会をつくっていききたい。
- ・職員が余裕をもって保育に臨める職場環境の整備を行っていく。
- ・保育者も一緒に遊び、子どもと一緒に楽しむことで、信頼関係をさらに強くしていきたい